



# この人

既存の医療に飽き足らない医師や看護師、介護士ら約600人が結集して5年前に誕生した認知症治療研究会。元大学教授の脳神経外科医から引き継ぎ、老人ホームの看護師として2代目の代表世話人に今春就任

認知症治療研究会の代表世話人に就任した

松崎 一代さん  
まつぎき かずよ

## 医師と介護者、家族間の意思疎通うまくとりた

認知症患者への支援は、医師と看護師、介護士、家族らの共同作業だ。しかし、多くの医師は診断と定番薬の処方をしたあとはほったらかし。「医師にこうしたらと提案しても聞いてくれない」との思いが強かった。ずっとそばにいて患者のことを一番知っているのは、ケアをする看護師・介護士や暴力、無気力、徘徊(はいかい)に悩む家族たち。明るく熱意があるのを買わ

れた橋渡し役に推され、「現場の苦勞も熟知する自分がやるしかない」と腹をくくった。

高校卒業後はダンサーを目指し、ニューヨークで6年修業に励んだ。腰を痛め、失意のうちに帰国してまもなく、祖父を亡くした。ニューヨーク行きを応援してくれた大好きな祖父だった。周りに勧められ、30歳を過ぎて看護師に転身。3年間の訪問看護でお年寄りのケアにはまった。その後

「介護も医療も両方必要なのが認知症。医師と介護者、家族間のコミュニケーションをうまくとって、認知症とともに生きる社会に貢献したい」。福岡県出身、53歳。

窓口負担(1〜3割)は最大900円増える。厚労省が8日の中央社会保険医療協議会(厚労相の諮問機関)に提案し、了承された。自覚症状から新型コロナウイルスの感染が疑われる患者は、原則として各地に設置された「帰国者・接触者相談センター」に連絡し、院内感染防止の対策が整った専門外来を紹介してもらう。このほかに通い慣れた診療所や一般病院を訪れる患者もいる。

## コロナ診療で報酬を上乗せ

### 患者負担最大900円増

厚生労働省は8日、新型コロナウイルスの感染者やその疑いのある人を外来で診察した医療機関に、医療サービスの対価の診療報酬を特例で上乗せすると決めた。東京都など大都市圏を中心に感染者が急増する中、対応に当たる病院を後押しする狙い。診察1回当たり3千円増額し、患者の

専門外来ではない診療所や一般病院も、感染が疑われる患者と、そうではない患者との診察時間をずらしたり、待ち合いスペースを分けたりするなどの感染防止対策を取ってれば、診療報酬の3千円増額の対象となる。

入院が必要な患者を受け入れた病院への報酬も、1日当たり最大1万2千円増額する。感染症法に基づき公費で賄われるため、患者負担は発生しない。

## 緊急度低い手術延期を促す提言

外科学会など目安公表

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて日本外科学会などは8日までに、手術の実施時期を緊急度に応じて判断し、致命的な病気でなければ延期するよう促す提言をまとめた。患者や医療従事者への院内感染を防ぐのが目的。

手術の緊急度を3段階に分類した目安も公表した。

致命的な病気ではない外来手術や、健康診断の胃や大腸の内視鏡検査は延期を促した。重症化する危険がある病気については、可能なら延期することを推奨。具体例として、悪性度の低いがんの手術などを挙げた。

ほとんどのがん、心臓病、外傷など数カ月以内に手術しないと致命的になるケースは、十分な感染予防をした上で慎重に実施するべきだとした。



長さ約520分の泉沿いに満開の桜が咲き誇る赤坂泉公園。6日、小型無人機